

令和元年度

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

事業報告書

公益財団法人愛世会

《目 次》

1. 事 業 概 況	-----	1 ~ 2項
2. 愛 誠 病 院	-----	3 ~14項
3. 介護老人保健施設 シルバーピア加賀	-----	15~19項
4. 訪問看護ステーション	-----	20~21項
5. 居宅介護支援事業所	-----	22~23項
6. 地域包括支援センター	-----	24~29項
7. 愛 歯 技 工 専 門 学 校	-----	30~31項
8. 愛 歯 技 工 研 究 所	-----	32~34項

事業概況

令和元年度は、主な経済活動として10月より消費税が8%から10%と引き上げられた。2%の増税により増税額は5.6兆円だったが、軽減税率の導入で1.1兆円の負担が減り年間4.6兆円の国民の負担となった。このうち3.2兆円を教育の無償化や診療報酬に振り分けるとされ、急激な少子高齢化社会が進む日本において社会保障制度の充実の切り札とされた。しかし、消費税値上げによる個人消費の減退は避けられず景気後退となった。

また、平成31年4月より「働き方改革」が施行され、労働基準法に残業時間の上限が決められ、有給休暇の取得などが義務付けられた。医師については5年間の猶予期間があるものの、医療法上の応召義務や日当直制度など労働時間が議論となる。

このような社会情勢の変化の中で、新年を迎えれば景気回復を期待する声もあった。令和2年1月に中国の武漢市で初めて新型コロナウイルスの感染が確認された。これに端を発し2月から世界的に流行をしている新型コロナウイルスの問題が発生した。世界的に封じ込めが期待されたが、5月のWHOの発表では世界各国で感染者は500万人で、死亡者30万人と未曾有の感染症となった。これにより経済活動は大きな打撃を受け、景気後退はリーマンショック以上と考えられ、戦後最大の落ち込みと予想される。いままさにこの危機をどう乗り切るか世界的に試されている時である。今後、テレワークやソーシャルディスタンスを意識した新しい生活様式を考える必要がある。

当法人も新型コロナウイルスの影響は大きく、診療部門においては外来患者の減少、歯科技工所においては受診を控えることにより技工物の発注の減少など大きな影響を受けている。ここ数年続いている赤字体質に拍車がかかり、本年度は大変厳しい決算状況となった。

1. 公益事業の本体である診療部門は、厳しい医療環境のなか、一般病床や療養病床の病床稼働率の向上を目指し改善を繰り返し、年度末にようやく効果が表れてきた。精神科においては、社会復帰を目指し退院促進を行ってきた関係もあり、病床稼働率が下がったが、入院治療において社会復帰に力を入れ昨年並みの収入が維持できた。しかし、看護師・介護職らの不足を補うため経費負担が重かった。また、健診部門は、健康検査の需要が減ったが、ワクチン関係の業務が増え昨年並みの成績が確保できた。しかしながら、サービス向上を目指した結果、人件費などの経費が重くのしかかり、収支相償の決算を計上することはできなかった。

2. 病院併設型介護老人保健施設「シルバーピア加賀」の介護職員の人材不足は大変深刻で、当法人のみならず全国的な社会問題となっている。そこで介護職員の処遇改善の為、介護保険は令和元年10月から技能の高い介護職員に「特定処遇改善加算」が認められた。これにより技能の高い職員を確保し、在宅復帰支援のため邁進してきた。通所の利用率は上がったが、人件費の高騰などで費用が膨らみ、収入と支出がほぼ同額の決算となった。
3. 愛歯技工研究所は、技工業界の厳しい競争の為、利益率の高い自費診療の技工物の獲得が難しく、保険診療の技工物が多くを占め赤字決算となった。
また、学校についても1年間休校が続いており、収入はなく経費だけが計上され赤字決算となった。

事業概況は以上のとおり、医療や介護を取り巻く社会情勢の厳しさにより、患者・利用者の減少や人材確保の難しさが重なり、大変厳しい結果となった。歯科業界においても患者数の減少は、技工物の減少に繋がり自費診療が減った結果、悪化の一途をたどっている。令和元年の法人の決算結果は、大変厳しい結果となった。しかし、患者や利用者が納得のいくサービスの提供ができたと自負をしている。また、歯科技工物の完成度の高さは、再作製の少なさに繋がっていると考えている。

公益財団法人として、医療支援や社会復帰や公衆衛生の向上に貢献できたと考えている。

愛 誠 病 院

厳しい医療環境の中、患者サービスの向上を考え、あらゆるニーズに対応できる病院作りを第一に、安全なそして安心できる医療環境を提供するため、次の事業を行った。

A. 診療部門

1. 公益財団法人病院として実施した事項

- (1) 生活保護者については、症状が重篤化して個室を使用する場合には室料差額の徴収を行わなかった。室料差額減免額: ¥1,618,700 円
- (2) 精神病棟において合併症治療のため入院相談が 132 件あり、そのうち入院した患者は、23 人であった。
- (3) 生活保護法による医療扶助患者数は次のとおりである。

	患者数
入院総数(延べ)	142,819 人
うち医扶患者	42,525 人
外来総数(延べ)	39,373 人
うち医扶患者	7,386 人
合 計(延べ)	182,192 人
うち医扶患者	49,911 人
比率(%)	27.39%

- (4) 入院及び外来患者数は次のとおりである。

	入院患者	退院患者	死亡者	入院患者延数	外来患者延数
年間患者数	549	538	113	142,819	39,373

- (5) 地域住民対象に行った無料医療講演会の参加者数は次のとおりである。

板橋区内の女性対象

演 題: 女性のための漢方講座

出席者: 70 名

演 題: 女性のための静脈瘤講座

出席者: 40 名

加賀 54 自治会会員 40 歳以上対象

演 題: 血管年齢診断

出席者: 36 名

- (6) 就労の支援の為、看護職場体験を下記の通り受け入れた。

中学校 2 校から 5 名

- (7) 勤労者に対しインフルエンザワクチンや B 型肝炎ワクチンをはじめ各種ワクチン接種を延 63,113 人に行った。
- (8) 精神科の外来患者に対して社会復帰支援のため精神科デイケアを延 6,149 人に、入院患者に対して精神科作業療法を延 20,184 人に行った。
- (9) 厚生労働省の 57 項目のストレスチェックを 6,565 名の方に行った。
そのうち高ストレス者への医師面談を 3 名の方を実施した。また、人間ドックにおいて「ストレス検診」を 4 名の方に行った。
- (10) 各学校の学生実習を次のとおり受け入れた。

学校名	担当部署	期間	人数
日本リハビリテーション専門学校	作業療法科	4月～6月 9月、10月	1名
帝京高等看護学院	看護部 (精神病棟)	4月～10月 2月	36名
聖学院大学	医療相談室	7月～8月	1名
武蔵野大学	医療相談室	6月	1名
彰栄リハビリテーション専門学校	作業療法科	6月～8月 2月	3名
板橋区医師会立 看護高等専修学校	看護部(精神・ 療養病棟)	6月～11月	34名
上板橋看護専門学校	看護部 (精神病棟)	6月～10月 2月	28名
文京学院大学	医療相談室	7月	1名
首都医校専門学校	作業療法科	9月	1名
東京衛生学園専門学校	看護部 (精神病棟)	1月	20名

- (11) 日本赤十字社 東京都赤十字血液センターの依頼で献血を愛誠病院駐車場で令和 2 年 2 月 7 日 69 名の受付者に対して 57 名の献血を行った。

2. 本院及び分院「上野クリニック」のドック・健診実績

(1) 本院のドック・健診実績

	男性	女性	合計
日帰り人間ドック	1,461	832	2,293
生活習慣病予防健診	779	391	1,170

(2) 分院「上野クリニック」のドック・健診実績及び外来実績

① 健診実績

	男性	女性	合計
日帰り人間ドック	1,100	389	1,489
生活習慣病予防健診	2,132	1,518	3,650

② 外来実績

	診療実日数	延べ患者数
外来実績	242	3,227

(3) 愛誠病院全体で行った集団健診受診者数実績

① 一次健康診断

定期健康 診 断	生活習慣病 予防健診	が ん 健 診			循環器
		胃	大 腸	肺	
98,364	30,544	22,339	4,020	71	14,412

児童生徒	特 殊	婦 人	住 民	ストレス チェック	採用時 健康診断	合 計
21,749	13,616	986	1,070	6,565	7,282	221,018

② 二次健康診断

定期健康 診 断	生活習慣病 予 防 健 診	胃 が ん (胃内視鏡)	大 腸 が ん (大腸内視鏡)	肺 が ん (胸部 CT)	合 計
1,501	243	1,529	17	32	3,322

3. 疾患予防事業の計画に対する報告書

疾病予防事業（集団検診）

(1) メンタルヘルス相談窓口の強化

ストレスチェックの医師面接及び臨床心理士や精神保健福祉士などによる面談を実施し、院内精神科との連携を強化しました。

高ストレス者への医師面談を3名の方に実施した。

(2) メンタルヘルスの各事業者への啓蒙

ストレスチェックをウェブに対応するとともに、職場分析未実施事業所に対するPR活動を行い、受検者数の増加に努めました。

次年度においても引き続き継続計画とします。

臨床心理士を増員し、今後活動強化に努めます。

(3) メタボリックシンドロームの対策強化及び診療部門との連携

実施件数は無く、次年度への継続事業とします。

対策として、糖尿病外来・循環器外来などの特殊外来や漢方内科での肥満対策や管理栄養士の栄養指導などは実施できるよう体制は継続しております。

(4) リクエストに応じた迅速な結果報告の実施

事業所単位での要望に対応しました。

(5) 事業所・地域住民などに対して疾病予防・健康作りに貢献

定期健康診断、生活習慣病健康診断、がん検診、学校健診、住民健診など、計221,018名を実施しました。

(6) 各種健診結果を解析することで、疾病予防の成果の研究発表

研究発表がなされなかったため、次年度への継続計画としました。

(7) 勤労者・児童へのワクチン接種の促進

勤労者へのワクチン接種を述べ63,113名実施しました。なお、児童へのワクチン接種実績はありませんでした。

(8) 受診者のプライバシー保護のため第三者認証を取得・指示

2016年度に取得したI SMS27001も認証を更新しました。

B. 研修部門

1. 学会出席実績

月 日	学 会 名	職 責	参 加 者
4月13日	第59回日本呼吸器学会学術講演会	内科医	寺門正裕
4月11日 ～15日	第75回日本放射線技術学会	科長	田中聡 他
5月24日 ～26日	日本超音波医学会第92回学術集会	副主任臨床検査技師	中山親子
5月25日 ～26日	日本超音波医学会学術大会	主任臨床検査技師	小野寿子
6月28日 30日	日本東洋医学会学術総会	薬局次長	松沢宗彦
7月25日 ～26日	第60回日本人間ドック学会学術大会	院長	川上利光
7月25日 ～26日	第60回日本人間ドック学会学術大会	上野クリニック 所 長	堀江文俊
7月25日 ～26日	第60回日本人間ドック学会学術大会	上野クリニック 医 師	矢吹志保
7月26日 ～27日	日本不整脈心電図学術大会	主任臨床検査技師	小野寿子
7月12日 ～13日	日本褥瘡学会関東甲信越地方会	薬局次長	高岡佳子
8月23日 ～24日	日本褥瘡学会学術集会	師長	廣瀬久美子 他
8月30日 31日	日本精神保健福祉士協会 全国大会(学術集会)	室長	洗成子
9月29日	第79回日本消化器がん検診学会	科長	田中聡 他
10月3日 ～5日	日本臨床検査自動化学会	臨床検査 技 師	神部瑠美 他
10月30日	第33回東京精神科病院学会	看護師	島千恵 他

2. 外部研修会出席実績

月 日	研修会名	職 責	参加者
4月6日	シーメンス尿検査フォーラム 2019	臨床検査技師	神部瑠美 他
4月18日	第5医療圏板橋区看護部長会	看護部長	大塚泉江
4月18日	消化器 X線診断研究会	科長補佐	木下秀記
4月22日	スリープマネジメントセミナー	看護師	中野保寿 他
4月22日	高齢入院患者における不眠せん妄への対応	薬局長	弓野紅子
5月11日 ～12日	ソーシャルワーク研修	室長	洗成子
5月18日	日精看 精神科ビギナーズ研修	看護師	藤澤広生
5月18日 12月7日	都病薬褥瘡領域養成研究会	薬局次長	高岡佳子
5月20日	高齢者の嚥下と服薬	主任	大山広美
5月23日	板橋区保健所 栄養管理講習会	科長	森田ほづえ
5月29日	安全運転管理者講習	課長	石井秀揮
6月4日	日本年金機構算定基礎届説明会	主任	帯津典子 他
6月5日	医業健保保険組合算定基礎届説明会	課長	泉澤和哉 他
6月5日	精神科疾患対応力向上研修	看護部長	栗山美樹
6月10日	東精協 精神科看護の基本スキル	准看護師	一色麻未 他

月 日	研修会名	職 責	参加者
6月19日	東京都医療社会事業説明会	主 任	加藤さゆき
6月26日	第5回診療兼看護管理者連絡会議	看 護 部 長 看 護 部	大塚泉江
7月3日	東京都防災訓練説明会	施 設 課 任 主	菅谷英司
7月4日	マンモグラフィー技術講習会		田邊英里子
7月6日	東京デイケア連絡会 109 回例会	科 長 代 理	齋藤健太郎 他
7月7日	食生活改善指導担当研修者	准 看 護 師	荒井重美
7月7日	MAC セミナーインプラントレギュラー コース第1回	歯 科 診 療 所 長 所	島村讓
7月9日	令和元年度地域生活移行支援 会議圏域別会議		吉田綾子
7月27日	ニュートリー(株) ニュートリションセミナー2019		藤井 董
8月2日	精神科病院における安心・安全な 医療を提供するための研修	副 主 任	三浦貴裕
8月4日	MACセミナーインプラント レギュラーコース第2回	歯 科 診 療 所 長 所	島村讓
9月7日	フィリップス超音波装置セミナー	臨 床 技 師 検 査	黒澤怜奈 他
9月8日	MACセミナーインプラント レギュラーコース第3回	歯 科 診 療 所 長 所	島村讓
9月27日	慢性肝疾患を理解する	臨 床 技 師 検 査	都築陽子
9月28日	TOPS心理検査基礎講座		土谷静香
10月6日	MACセミナーインプラント レギュラーコース第4回	歯 科 診 療 所 長 所	島村讓
10月16日	救急自動車同乗研修	准 看 護 師	小笠原梢

月 日	研修会名	職 責	参加者
10月17日	消化管X線診断研究会		堀孝太郎
10月27日	クローバー登録者継続研修	副 主 任	粕谷兆見
10月28日	東京都医療安全推進講習会	検 査 科 長	粕谷勝尋
10月30日	副安全運転管理者講習	副 主 任	小滝立也
11月15日	東京都臨床検査技師会 一般検査研修会	主 任 臨 床 検 査 技 師	遠藤勝成
11月19日	江戸川区精神障害者地域移行 推進会議		吉田綾子
11月20日	東精協都立松沢病院施設見学 及び意見交換会	看 護 部 長 師	米塚麻里子
11月27日	東精協第6回精神障害者の 社会参加支援研修会	看 護 部 長 副 部	栗山美樹
11月28日	公社)日本医師会食育 サミット2019	栄 養 科 長 科	森田ほづえ
11月30日	日臨技臨床検査精度管理 調査報告会	検 査 科 長	粕谷勝尋
11月30日	東京デイケア連絡会議110回例会	科 長 代 理	齋藤健太郎
12月4日	上板橋看護専門学校 ケーススタディ発表会	副 師 長	有賀民子 他
12月7日	実習指導者フォローアップ	室 長	洗成子 吉田綾子
12月19日	消化管X線診断研究会	科 長 補 佐	木下秀記
1月12日	横浜高次脳機能診断法研修		土谷静香
1月20日	甲種防火管理再講習	施 設 課 任 主	菅谷英司
1月23日	高齢者と生理機能・腎機能に基づく 処方設計	薬 局 長 佐 補	井上坦子

月 日	研修会名	職 責	参加者
1 月 25 日	糖尿病治療に携わる 薬剤師の最新知識		笠原翠
2 月 9 日	日本臨床心理士会臨床心理講座		土谷静香
2 月 11 日	東精協心理部門研修会	科 長 代 理	齋藤健太郎
2 月 13 日	公正な採用選考をめざして	事 務 長	沖田勝
2 月 14 日	消化器講習会		田邊英里子
2 月 20 日	看護管理の基本はじめての 管理を学ぶ	看 護 部 長 師	廣瀬久美子

3. 内部研修会実績

月 日	研修会名	職 責	発表者
4 月 9 日	衛生講習会	マネージャー	日清医療食品
5 月 21 日	(看護補助者研修)医療制度の概要 及び病院の機能と組織の理解	副 部 長 補 佐	仲村純子
6 月 6 日	行動制限について	主 任	矢作太郎
6 月 11 日	主任研修	看 護 部 長 副 部	栗山美樹
6 月 18 日	防災と災害時の対応	施 設 課 任 主	菅谷英司
6 月 18 日	(看護補助者研修)医療チーム及び 看護チームの一員としての看護補助 者業務理解	副 部 長 補 佐	仲村純子
6 月 28 日	アルコール依存症について	医 師	奥山発

月 日	研修会名	職 責	発表者
7月2日	実習指導研修	副 主 任	奥村裕樹
7月4日	輸液ポンプ・シリンジポンプの 使用方法		テルモ株式会社
7月4日	看護研修・心電図のとり方、 読み方について	主 任 臨 床 検 査 技 師	小野寿子 他
7月16日	(看護補助者研修)守秘義務、 個人情報の保護	副 部 長 補 佐	仲村純子
7月23日	接遇と対応	看 護 部 部 長	大塚泉江
7月23日	ロナセンテープについて		大日本住友 製薬
8月6日	衛生講習会	マネージャー	日清医療測品
9月11日	プリセプターナース研修	主 任	有賀民子
9月20日	夜間災害時の対応	施 設 課 主 任	菅谷英司
10月8日	衛生講習会(板橋区保健所 食品衛生講習会報告)	主 任	祝迫繁樹
10月8日	感情コントロールについて	科 長 代 理	齋藤健太郎
10月24日	緊急時の対応(AED)について		フクダ電子(株)
10月24日	看護研修・緊急時の対応(AED)	検 科 査 長	粕谷勝尋 他
11月1日	PPE・手指衛生洗浄研修会	検 科 査 長	粕谷勝尋 他
11月18日	ISMS 講習会・教育訓練①	コ ン サ ル タ ン ト	(株)ゼクト
11月19日	(看護補助者研修)リネン交換につ いて	副部長補佐	仲村純子
11月22日	嚥下・誤嚥とは	医 師	寺門正裕

月 日	研修会名	職 責	発表者
12月5日	ISMS講習会・教育訓練②	コンサル タ ン ト	(株)ゼクト
1月14日	衛生講習会 (嘔吐物の処理について①)	マネージャー	日清医療食品
1月21日	(看護補助者研究) 着脱・清拭について	副部長補佐	仲村純子
2月19日	看護発表会	看 護 部	信田龍 他
3月12日	エンゼルケアについて	副 部 長	丸山美佐子 他
2月13日	衛生講習会 嘔吐物の処理について②	マネージャー	日清医療食品
3月25日	液状化検体細胞診について		病体整理研究

C. 設備部門

1. 老朽化等により、環境が悪化したので改修工事を次の通り実施した。

No	修繕内容
1	外来棟エレベーター交換
2	精神病棟給水管引き直し工事
3	臨床検査科エアコン入替及び配管工事

2. 病院の情報提供を推進するため、ホームページを適宜更新した。

D. 機器の整備部門

医療の質の向上と健診の充実を図るため、次の医療機器を購入した。

No	機器名	台数	設置部署
1	ドライイメージャー	2台	放射線科
2	X線受信装着ユニット	一式	放射線科
3	X線一般撮影装置	1台	放射線科
4	移動型X線撮影装置	1台	集団検診部
5	オートレフラクトメーター	1台	集団検診部
6	心電計	2台	集団検診部
7	無散瞳眼底カメラ	2台	集団検診部・検査科
8	手動式除細動器	1台	処置室・手術室

介護老人保健施設シルバーピア加賀

要介護者に対し、施設サービス計画に基づき、医学的管理の下での看護、介護、機能訓練、レクリエーション等在宅生活への復帰をめざした事業を行なった。

A. 事業部門

1. 施設状況

(1) 入所内訳

入所定員	200人
利用率	89.0%
入所者延数	65,094人
1日平均入所者数	177.9人

(2) 退所先 主な内訳

在宅	221人
併設病院	44人
病院	13人
他介護施設	42人
死亡	27人

(3) 通所内訳

通所定員	60人
利用率	84.8%
通所者延数	15,595人
実日数	306日
1日平均通所者数	51.0人

B. 受託部門

1. 職場体験学習実施実績

実施日	学 習	受入れ先	受入れ数
7月9日～11日	職場体験	板橋区立志村第4中学校	2名
11月26日～28日	職場体験	北区立十条富士見中学校	3名

2. 実習生・ボランティア受入実績

	受入れ先	受入れ実人数
看護科実習	帝京大学 看護科	4人
	北里大学薬学部他 学生	31人
介護科実習	東京家政大学	190人
	目白大学	2人
ボランティア	傾 聴	6人
	一 般	505人

C. 研修部門

1. 外部研修会出席実績

月 日	研 修 会 名	職 責	参加者
4月9日	城北地区看護介護部会	ケア部長	米永芳枝 他
4月11日	通所部会	リハビリ科長	山本幸司
4月27日	第30回日本医学会総会 2019 中部	施設長	白土裕之
5月13日	在宅医療と救急医療をつなぐ会	施設長	白土裕之
5月23日	日本人の食事摂取基準 (2020年版)改正ポイント	栄養科	木村美佐
5月24日	第92回日本産業衛生学会	施設長	白土裕之
5月26日	加賀五四自治会 創立七十周年記念祝賀会	施設長	白土裕之
6月20日	「看取り期の栄養管理」 ～老健栄養士のターミナルケア～	栄養科	大橋律子
7月10日	2019年度 「教員職員免許法の特例による社会 福祉施設介護等体験事業」 における施設説明会について	介護長	伊藤博基
7月28日 他5日間	東京都介護支援専門員専門研修Ⅱ	相談室	飯田有希子
8月5日	“病院ではない” 施設看護師の専門性と 具体的な働き方	看護科	菅野桃子
8月6日	城北地区老健看護部会	看護科長	永瀬和枝 他
8月7日	厚生労働省指定 医療的ケア教員講習会 (喀痰吸引及び経管栄養指導)	看護科	岸真紀
8月19日	東京都老人保健施設協会 事務担当者研修会	事務課	清水千秋
8月26日	“看とり期”に臨まれる実際のケア	看護科	菅野桃子
9月29日	東京医療的ケア教員 ・喀痰吸引教員研修会	施設長	白土裕之
9月24日	在宅復帰及び自宅で暮らし続けるための環境設備と住まい方	相談室	上田直子
10月6日	第51回板橋地区 区民運動会(来賓)	施設長	白土裕之

月 日	研 修 会 名	職 責	参 加 者
10月11日	第60回 日本脈管学会総会	施設長	白土裕之
10月16日	加賀まちづくり協議会 全体連絡会(総会)	施設長	白土裕之
10月24日	板橋区認定調査員現任研修	相談室	飯田有希子
11月3日	通所リハビリ研修会	相談室	君塚大輔
11月11日 他2日間	施設内リーダー職員 (看護実務者)研修	看護科	岸真紀 他
11月13日	消防業務協力者等表彰式	事務課長	井上博之
11月16日	姿勢・歩行障害に対する 足部からのアプローチ	リハビリ科	松岡宏介
11月25日	女性に多い下肢静脈瘤講座	施設長	白土裕之
12月5日	現場で活かせる摂食嚥下障害の 対応を皆で学ぼう	栄養科	大橋律子
12月8日	暮らしの場における看とり支援事業 (医師向け研修 基礎編)	医師	横尾久美子
12月10日	城北リーダー会議	介護科	菅野正人
12月16日	高齢者の結核対策 ～平常時対策と発生時対応～	看護科	國分三恵
1月5日	板橋区賀詞交歓会	施設長	白土裕之 他
1月17日	事務長懇親会	事務長	武藤真弓 他
1月19日	認知症の症状に対する 包括的な関わり方	リハビリ科	野崎慶彦
1月31日	令和元年度 アセッサー講習	介護科長	伊藤博基 他
2月14日	栄養管理講習会 「給食施設における栄養管理の基本 ～確認してみよう 目標量の設定や評価の方法～」	栄養科	木村美佐
3月7日 他1日	第31回 シーティングコンサルタント 養成研修 Aコース	リハビリ科	山本幸司

2. 内部研修会実績

月 日	研 修 名	講 師	参加者数
5月23日	メンタルヘルスと アンガーマネジメント	白土施設長	16
6月20日	体位交換について	山本科長(リハ科)	16
6月24日	各種感染について	白土施設長	39
6月27日	食中毒について(栄養科)	栄養科	13
7月11日	身体拘束について	事故対策委員会	18
7月18日	利用者様の理解	米永ケア部長	15
7月25日	褥瘡について	中村主任(看護)	18
8月 8日	虐待と接遇について	施設サービス推進委員会	21
9月19日	防災について	井上課長(事務課)	11
10月10日	感染の基礎知識	白土施設長	19
10月18日	ケアプランについて	板垣(介護) 飯田(相談員)	19
10月28日	窒息時の対応について	事故対策委員会	10
11月1日	感染の基礎知識	事故対策委員会	9
11月14日	虐待と接遇について	施設サービス推進委員会	9
1月16日	虐待と接遇	事故対策委員会	3
1月30日	愛世会の歴史 施設の概要、役割、方針、 リテラシーについて 成長マインドをもて	白土施設長	4
2月20日	研究発表会	研修育成委員会	63
2月27日	各申請書の書き方 相談業務について	事務・相談室	13
3月12日	施設内の感染対策について	白土施設長	30

訪問看護ステーション

要介護者の居宅を訪問し療養上の世話や支援、診療の補助を行い、必要な看護サービス事業を行なった。

A. 事業部門

1. 事業状況

保険の別	訪問件数
医療保険	605件
介護保険	1,785件
1日平均訪問件数	9.9人

B. 研修部門

1. 会議・研修会等出席実績

月日	会議・研修会名	職責	参加者
5月14日	板橋区訪問看護ステーション所長会	所長	山下昌代
5月29日	指定訪問看護事業所の集団指導	事務課	芳野恵
7月17日	訪問看護師の医療機関における研修	看護師	今井香奈
7月29日	訪問看護師の医療機関における 研修の意見交換会	看護師	今井香奈
8月30日	点字会	所長	山下昌代 他
9月10日	板橋区訪問看護ステーション 所長会&納涼会 第1回板橋・仲宿地域ケアマネ向け研修	所長	山下昌代
9月20日	「円滑な医療連携について ～訪問看護事業所との連携による 援助の充実の為に～」	所長	山下昌代
11月12日	板橋区訪問看護ステーション会 所長会	所長	山下昌代

月 日	研修会・会議名	職 責	参加者
1月11日	第2回シミュレーターを活用した フィジカルアセスメント(基本編)	看護師	石黒朋恵
1月21日	板橋訪問看護ステーション会 所長会 ・研修会 仲迎聡子との「えんむすび」	所長	山下昌代
1月26日	～管理職・リーダー職にこそ聞いてほしい 驚異の「いろ葉」流・人材育成法	所長	山下昌代
3月1日	災害対策研修会 ～起こりうる自然災害 どのように対策していますか？ ランチョンセミナー 電磁波の健康影響について	所長	山下昌代

居宅介護支援事業所

在宅の要介護者等が、在宅サービスを適切に利用出来るようにサービス計画を作成し、居宅介護支援事業を行なった。

A. 事業部門

1. 事業状況

内 容	件 数
介護保険給付管理	952 件
認定調査委託件数	33 件

B. 研修部門

1. 介護支援専門員事例検討会開催実績

月 日	内 容	参加 事業	参加者数
4月12日	第16回 長男の理解力を高めるには	7	10
7月12日	第17回 同居を決めたが悩んでいる次男について	14	19
10月11日	第18回 重度化防止のための必要な支援が、本人の拒否により繋がらないケースについて	15	22
1月10日	第19回 施設入所の認知症者意思決定支援について	19	22

2. 外部会議出席

	研 修 会 名	参加者
毎月 1 回	板橋区主任介護支援専門員協議会 幹事会	佐藤浩之
5 月 27 日	機能低下が懸念される意欲のない利用者への支援について	佐藤浩之 木村 実
12 月 13 日	老々介護で経済・家族問題を抱える利用者への支援について	佐藤浩之 木村 実

3. 外部研修会出席実績

月 日	研 修 会 名	参加者
5 月 16 日	板橋区主任介護支援専門員協議会 研修会 適切なケアマネジメントとは？ ～政策動向を踏まえて～	佐藤浩之 木村 実
9 月 20 日	円滑な医療連携について ～訪問看護事業所との 連携による援助の充実のために～	佐藤浩之
9 月 20 日	精神障がいの理解と支援 ～特性を学び、かかわり方を考える～	木村 実
9 月 24 日	在宅での医療連携について ～医師や医療職との連携で留意すべきこと～	佐藤浩之 木村 実

地域包括支援センター

板橋区より運営委託を受け、地域の高齢者に対して状況を把握し、適切な情報を継続的に配信した支援事業を行なった。

A. 事業部門

1. 事業状況

内 容	取扱い件数
相 談 延 数	7,211 件
相 談 者 数	990 人
見守りネット対象者	306 人
在 宅 訪 問 件 数	2,513 件
認 定 調 査 委 託 数	68 件
介護予防事業管理件数	1,461 件
予防給付管理件数	1,441 件

B. 受託部門

1. 外部講演会等実績

月 日	研 修 会 名	職 責	参 加 者
4月 1 日	「包括の役割、介護サービスについて」 四ツ又町会老人会「なかよし会」	センター長	齋藤肇二
4月 2 日 他 13 日	「みどりの会」活動補助 グランフィーネ加賀	保健師	紀室幸恵 他
4 月 6 日	「包括の役割、介護サービスについて」 みんなのたすけあいいたばし	センター長	齋藤肇二
4 月 8 日 他 7 日	「10の筋トレの会」活動補助 加賀ガーデンハイツ	社会福祉士	三澤史哲 他
4 月 15 日	「認知症サポーター養成講座」 第二協議体構成員向け	センター長	齋藤肇二 他

月 日	研 修 会 名	職 責	参 加 者
5 月 13 日	「地域包括支援センターの役割と ケアマネとの連携について」 (おとしより保健福祉センターにて 新任ケアマネジャー向け研修)	センター長	齋藤肇二
5 月 14 日	「元気力測定会」 東板橋体育館	センター長	齋藤肇二 他
5 月 20 日	「地域包括支援センターについて」 東寿会総会	社会福祉士	工藤久美
5 月 24 日 他 1 日	「生活援助訪問サービス従事者研修」 シルバー人材センター	センター長	齋藤肇二
5 月 27 日	「高齢者福祉サービスについて」 けやきの会	社会福祉士	宮川多津子
6 月 8 日	「認知症サポーター養成講座」 ケイワ薬局	センター長	齋藤肇二 他
6 月 20 日	「家族介護者教室」 シルバーピア加賀	保健師	紀室幸恵 他
6 月 29 日	「福祉相談会」 五四自治会	センター長	齋藤肇二
7 月 8 日	「見守りキーホルダー交換の案内」 金沢老人会	センター長	齋藤肇二
7 月 8 日	「元気力チェック～ココロとカラダ～」 みどりの会	センター長	齋藤肇二
7 月 9 日 他 1 日	「見守りキーホルダー交換の案内」 仲よし会	社会福祉士	工藤久美
7 月 10 日	「見守りキーホルダー交換の案内」 大山東町明寿会	社会福祉士	工藤久美
7 月 17 日	「見守りキーホルダー交換の案内」 ゆーらんど	センター長	齋藤肇二 他
7 月 27 日	「熱中症に気を付けよう」 三桜会	社会福祉士	工藤久美
9 月 9 日	「元気力測定会」 仲宿地域センター	保健師	紀室幸恵
10 月 11 日	「シルバーは～と」活動補助 板橋いこいの家	社会福祉士	工藤久美
10 月 23 日	「認知症サポーター養成講座」 ハクジュサロン板橋	センター長	齋藤肇二 他

月 日	研 修 会 名	職 責	参加者
10月29日	「板橋区認定係新人職員向け研修」 板橋地域包括支援センター	センター長	齋藤肇二
10月31日	「介護予防サポーター養成講座」 おとしより保健福祉センター	保健師	紀室幸恵
11月29日	認知症サポーター活動支援 「声かけ訓練」 板橋地域センター周辺地域にて	センター長	齋藤肇二 他
12月1日	「見守りキーホルダー事業について」 板2シルバー会	社会福祉士	工藤久美
12月7日	「家族介護者教室」 シルバーピア加賀	保健師	紀室幸恵 他
12月20日	「スマイル14」活動補助 板橋いこいの家	センター長	齋藤肇二
12月22日	「見守りキーホルダー事業について」 老人会・仲よし会	センター長	齋藤肇二
2月19日	「認知症の基礎知識・備え」 グリーンホール	センター長	齋藤肇二 他

C. 研修部門

1. 外部研修会等出席実績

月 日	研 修 会 名	職 責	参加者
4月10日	支え合い会議 研修会	センター長	齋藤肇二
5月15日	認知症初期集中支援チーム員研修	保健師	紀室幸恵
6月26日	認知症ケア研修	センター長	齋藤肇二 他
7月2日 他1日	地域包括支援センター職員研修 初任者研修	保健師	紀室幸恵
7月4日	DASK研修	介護支援専門員	宮本京子
7月10日 他1日	地域包括支援センター職員研修 初任者研修	介護支援専門員	宮本京子
8月21日	キャラバンメイト養成研修	介護支援専門員	宮本京子
9月5日	支え合い会議 フォローアップ研修	センター長	齋藤肇二
9月25日	地域包括支援センター職員向け研修	センター長	齋藤肇二 他

月 日	研 修 会 名	職 責	参 加 者
10月18日 他2日	主任ケアマネ向け研修 気づきのスーパービジョン実践研修	センター長	齋藤肇二
11月3日 他1日	地域ケア会議実践者養成研修	介護支援専門員	三澤史哲
11月28日	帝京地域包括ケア懇談会	センター長	齋藤肇二
11月30日	リハ・ケア推進シンポジウム	センター長	齋藤肇二 他
12月4日	介護予防給付ケアマネジメント研修	保健師	紀室幸恵
12月5日	認知症地域支援推進事業 認知症地域づくり支援研修	センター長	齋藤肇二
12月11日	認知症地域対応向上研修	保健師	紀室幸恵
12月18日 他1日	地域包括支援センター職員研修 現任者研修	保健師	紀室幸恵
12月25日	認知症アセスメントシート(DASC) フォローアップ研修	社会福祉士	宮川多津子
1月9日	介護予防ケアマネジメント研修	保健師	紀室幸恵
1月18日 他1日	認知症初期集中支援チーム員研修	社会福祉士	宮川多津子
1月21日	認知症地域支援推進員 基礎研修	社会福祉士	宮川多津子
2月17日	認知症地域支援推進員 フォローアップ研修	社会福祉士	宮川多津子
2月22日	心臓病予防セミナー 第1回まもろう心臓	センター長	齋藤肇二

2. 内部研修会実績

月 日	研 修 会 名	講 師	参 加 者
8月15日	「個人情報保護法マニュアル・ 運営規程について」	齋藤肇二	包括職員

3. 主任介護支援専門員交流会開催実績

月 日	内 容	参加事業者	参加者数
4月24日	今年度の活動について	8	11
6月25日	地区ケアマネ向け研修開催について	8	11
8月27日	第1回 ケアマネ向け研修について	9	14
11月12日	第1回 研修の振り返りと次回研修について	7	11
1月28日	第2回 ケアマネ向け研修について	6	9

4. 地域ケアマネ向け研修会開催実績

月 日	内 容	参加事業者	参加者数
9月20日	円滑な医療連携について ～訪問看護事業所との連携による 援助の充実の為に～	26	38

5. 小地域ケア会議開催実績

月 日	内 容	参加事業者	参加者数
5月27日	機能低下が懸念される意欲のない利用者への支援について	31	36
12月13日	老々介護で経済・家族問題を抱える利用者の支援について	31	41

6. 相談協力員研修会・交流会開催実績

月 日	内 容	参加者数
8月21日	認知症とともに暮らせる地域をつくること	53
2月5日	「悪徳商法の手口と対策」 「板橋区の消費者被害について」	50

7. 地区ネットワーク会議開催実績

月 日	内 容	参加者数
1月22日	板橋地域の課題を考える・活動報告	18

8. 地域密着型通所サービス 運営推進会議出席

月 日	事業所名	職責	参加者
4月17日	いきいきライフSPAハクジュ	センター長	齋藤肇二

愛 歯 技 工 専 門 学 校

本校は、大正 14 年(1925 年) 歯科技工士という職業と共に誕生した。

養成所開校から現在に至るまでの 95 年間、「誠」の精神を理念とし 2,145 名の歯科技工士を世に送り出してきた。

歯科医療はこの間、単に「痛みを取り除く」ことから「咀嚼機能回復」さらに「審美の追求」へと国民の医療に対する要望も変化し、それに付随する様々な医療技術も高度化してきた。

近年の「歯科審美」に基づく医療では 1 本単位の歯の治療に止まらず、1 口腔単位での評価や顔傍との調和まで問われるようになった。人間の感情表現で最も重要な顔の表情、特に「笑顔」は最も重要なファクターであり、個性の象徴に繋がるため重視される。笑顔の際の上唇形状(スマイルライン)と前歯(形態と色彩)との関わりが、それである。

そこで本校では、早くから「歯科色彩」「歯科審美」に教材研究の視点をおき、各学会でも発表実績を重ねてきた。平成 18 年から現在に至るまで、全国の歯科技工士学校で利用されている技工士教本「歯科技工美術概論」を執筆し、全国の技工士教育にも貢献してきた。

※近年の 18 歳人口の減少等により、入学希望者が激減し、平成 29 年 4 月から学生募集停止し、平成 31 年 4 月から(現在)休校中である。

A.研究部門

1. 学会等発表実績

月 日	学 会 名	職 責	発 表 者
7 月 27 日	第 29 回 日本医用歯科機器学会・金賞受賞 「フラットベッド式スキャナーを用いた簡便・適切な 模型画像取得法」	学校長	田中 誠
12 月 18 日	東邦歯科医療専門学校 歯科技工士科・歯科衛生士科合同講演会 特別講演「歯科の色彩について」	学校長	田中 誠

2. 学会出席実績

月 日	学 会 名	職 責	参 加 者
7 月 27 日	第 29 回 日本医用歯科機器学会学術大会	学校長	田中 誠

3. 執筆実績

月 日	書 籍 名	職 責	発 表 者
3 月	日本医用歯科機器学会 学会論文 「フラットベッド式スキャナーを用いた 簡便・適切な模型画像取得法」	学校長	田中 誠

B.その他の部門

1. 施設開放の実施

開放日	受け入れ先	行事名
6 月 13～14 日	社会福祉法人同愛会加賀福祉園	あじさい祭り
10 月 26 日	社会福祉法人同愛会加賀福祉園	加賀福祉園祭り

愛 歯 技 工 研 究 所

歯科補綴装置製作において CAD/CAM システムを利用しなければならないケースが増えてきた。パソコンモニター上で補綴装置の形態を設計する際、欠損側両隣接歯との関係や対合歯との接触度合いを考慮して行う作業では、材料学や解剖学、咬合学などの学術的エビデンスと臨床経験が必要となる。当研究所では、

- ① 若い所員がパソコン上での設計をおこなう。
- ② 経験豊富な各部門の責任者が設計のチェックをおこなう。
- ③ CAM 機による切削加工をおこなう。

上記手順で製作している。このようにシステム化することで、口腔内での破折、適合不良などの再製作が激減し、臨床経験の少ない所員も応用力を身に付けることができるなど有効性が高い。

明治時代初期から(近代歯科として)実績を上げてきた、アナログ技術中心の医療とは、印象材と石膏を用いて、患者の口腔内の状態を再現し、営業者を介して歯科医師と歯科技工士がコンタクトする事で、長期にわたり実績を積み上げてきた。

これからは全てデジタル機器だけで(デジタル印象から 3D プリンターや CAD/CAM 機による補綴装置製作まで)デジタルデータによる患者情報を瞬時に交信し、より高精度な補綴装置をスピーディーに製作できるようになる。これら全ては、CAD/CAM システムが元でとなり、将来 3D プリンターによる「高精度・量産化」を当研究所も図らなくてはならない。

A. 技術研究部門

名 称	概 要
CAD/CAM 技術の研究	グラスファイバー配合強化型レジンの材料を用いての臨床的なケースで試作を繰り返し、安定供給できるまでになった。
製作工程の見直しと構築	CAD/CAMを用いてインプラント上部構造体の製作工程の構築およびワックスディスクから保健のクラウン原型を切削形成する。
圧入(プレサブル)法を用いたオールセラミックスの外部技工所との技術提携	昨年同様に外部技工所との共同研究で良好な結果が得られ、臨床技工に取り入れている。
全社的品質管理活動の充実	職場単位で問題点の原因及び解決策を話し合い、目標である「再製率を4%」を現在も維持できている。

B. 研修部門

1. 学会出席実績

月 日	学 会 名	職 責	参加者
7月7日	日本口腔インプラント専門歯科技工士公開セミナー	副所長	太田 光教

2. 外部研修会出席実績

月 日	研 修 会 名	職 責	参加者
11月4日	日本口腔インプラント中央歯部大会	副所長	太田 光教

3.展示会見学実績

月 日	研 修 会 名	職 責	参 加 者
11 月 9 日	東京デンタルショー(東京ビックサイト)	所長	加藤 吉夫
	〃	有床義歯部 部長	浦山 卓也
	〃	事務長	田中 誠
	〃	事務部部長	谷口 幸夫
1 月 12 日	第 48 回 横浜デンタルショー	副所長	太田 光教
	〃	歯科技工士	吉田 明良

C. その他の部門

1. 研究所見学受け入れ

令和元年 7 月 30 日	児童スタディーグループ	32 名
令和元年 11 月 21 日	「加賀の子供」保育所	10 名 引率 2 名
令和 2 年 1 月 27 日	衛生士学校・学生	4 名